

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2019.7) 平成30年度:14.

看護診断が実践に結びつくための看護診断セミナー

久保 千夏, 宮地 実穂子, 嶋田 あすみ, 谷口 亜紀子, 金田
豊子

看護診断が実践に結びつくための看護診断セミナー

旭川医科大学病院 看護部患者看護システム委員会
○久保千夏 宮地実穂子 嶋田あすみ 谷口亜紀子 金田豊子

A病院では患者看護支援システム委員会（以下システム委員会）が中心となり、看護診断別標準看護計画のマスタメンテナンスを行っている。標準看護計画の変更のポイントに関しては、内容の周知とともに、看護診断の概念についてセミナーを開催してきた。しかし、セミナー後の調査から、看護診断プロセスの理解や活用にまで至らず、カンファレンスなどの継続した学習、教育委員会、看護診断力アップチーム（以下アップチーム）等との連携が課題となった。そこで今年度、システム委員会とアップチームが協働し、看護診断の理解を深め、活用のイメージ化を図ることを目的として事例を用いたセミナー（以下看護診断セミナー）を実施した結果を報告する。

【用語の説明】

患者看護支援システム委員会：看護過程・患者看護に関するシステムを構築・評価し、看護の質向上を図ることを目的とする委員会。

看護診断力アップチーム：看護部教育委員会と連携し、看護職員の看護診断を活用した実践能力向上を目的とするチーム。事例検討会の開催や各病棟のカンファレンスに参加しファシリテーターとして活動しているチーム。

【方法】

1. システム委員会：看護診断セミナーを企画し実践した。内容は、意思決定促進準備状態の定義、心理学や看護に関する文献から「意思決定について」「看護者の倫理綱領」「看護者の役割」など意思決定促進準備状態の理論的背景、具体的介入を交えたよりよい意思決定の方法について説明後、標準看護計画の変更のポイントを説明した。
2. アップチーム：意思決定促進準備状態に関する事例を用い、患者背景から診断までの過程、診断指標、患者目標、看護介入をマスタ登録されている標準看護計画と照らし合わせながら個別性に合わせた内容を説明した。
3. セミナー参加者の反応：看護診断セミナー参加者に無記名のアンケートを実施し、単純集計した。アンケートの活用についてはA病院倫理審査委員会で承認を得た。

【結果】

アンケートは、139枚配布、118枚回収し回収率は85%だった。アンケート結果は、研修内容の理解「できた・ある程度できた」が116名（98%）、看護診断の実践への活用「できる・ある程度できる」が114名（96%）、事例による診断のイメージ化「できた・ある程度できた」が115名（97%）だった。また、「具体的な事例を通してイメージできた」「事例を用いた説明を継続してほしい」などの意見があった。

【考察】

アンケートの結果から、看護診断の診断概念の学習とより実践に近い事例を用い照らし合わせることで、看護診断の理解や活用のイメージ化を図ることができたと考える。また、役割の違うシステム委員会とアップチームが協働することで、概念と実践が繋がり、より実践に結びつく看護診断セミナーにすることができたと考える。